

II. 冷蔵倉庫の自主行動計画

冷蔵倉庫業界を取り巻く環境やニーズが大きく変化するなかで、我々も旧態依然としたままでは時代に取り残され、社会的インフラの機能不全を引き起こす一因となりえます。

従来のやり方にこだわってはいは、もはや社会の要請に十分に答えることができません。

トラック待機時間削減のために、下記のような行動計画を立案しました。

1. 情報共有に努めるように寄託者、運送会社に働きかける。
2. 特定日集中を避ける
 - ▶ 月末月初・期替りを避けるよう寄託者に依頼する。
 - ▶ 多様な料金体系の導入（暦日2期制以外の料金体系の導入）
期替りの物量集中を避けるため、暦日2期制の既成概念から脱却し、多様な料金体系を導入する。
例：入庫日起算15日1期制 など
3. オーダーのルール適正化
 - ▶ 適正なオーダールールを寄託者と取り決める。また、ルール外の対応依頼があった場合にはトラック待機時間に影響を及ぼさない様に努める。
4. 少量多頻度入出庫の解消と過度な賞味期限管理の緩和
 - ▶ 設備、人員、リードタイム等による処理能力を超えた過度な少量多頻度の取り扱いは自粛するか寄託者に改善を依頼する。
5. 作業効率向上のための在庫水準適正化
 - ▶ 冷蔵倉庫は限りある空間を元手に収入を得るビジネス。その中で収入・利益を拡大する方法を考える。
 - ▶ 適正単価収受を推進し、設備能力を超えた貨物量の取り扱いを抑制し作業効率を高める。
（例：在庫量協定など）
6. 接車バース運用やトラックの接車順運用について見直す
 - ▶ バース運用の効率化（小口/大口バースの分化など）
 - ▶ 受付して列から離れても携帯での呼び出しなどを活用し並ばなくてもよい運用を導入する。
 - ▶ トラック予約や予定管理、バース管理の仕組みやシステムを導入する
（これらの仕組みやコンピュータシステムについては別途会員に例示し周知します）
7. ユニットロードツールとその管理手法の研究に取り組む
 - ▶ パレット規格の統一化など、手荷役解消のためのユニットロード化を研究促進する。
8. 変形労働時間制を導入するなどして柔軟な営業時間に対応する
 - ▶ 固定的な営業時間（8：30～17：00など）を見直し、集中する時間帯の分散・緩和を図る
（繁忙期の柔軟対応、変形労働時間制の採用等）
9. 関係者への提言に基づき理解と協力を求める。